

参加者募集中!

できる演出家のための ブレーストーミング

■ブレーストーミングの意義

日本では演出技術を学ぶことは容易ではありません。多くの日本の演出家は独自の感性や経験をもとにその技術を各自で確立させています。しかし、時代の変遷は目まぐるしく、従来のやり方や考え方だけでは創作活動がうまくいかない現実もあります。芸術団体に於いても、一人のカリスマが主導する時代から、より特化・分化したプロフェッショナルとの協働創作活動を必要とする時代へと変化しています。演出家・実演家だからこそ、真摯に自身と向き合い、他者と関わり合い、改めて自身の感覚や思考を見直し、**新たな表現領域を手に入れる必要があるのではないのでしょうか?**

■ブレーストーミングのねらい

今回招聘するヌルカン・エアブラート氏は、いわゆる単なる講師という立場ではなく、一人の実演家として日本の演出家たちと一緒にブレーストーミングに参加します。従来のワークショップにあったような「教える-教えられる」という垂直方向での国際演劇交流ではなく、「**学び合い-深め合う**」という水平方向での交流を行うためです。一つのテキスト(今回は、アリストパネス『アカルナイの人々』)を題材に、参加者1人1人が上演のためのアイデアやイメージを持ち寄り、お互いに比較し、テキストに描かれている内容を掘り下げ、様々な問題を提起しながら話し合いを繰り返します。そうして言葉を尽くし「**学び合い-深め合う**」中で、以下の3つの「**演出者としての力**」を広げていきます。

- 1、読解力:より魅力的な上演を実現するためのテキスト読解力。
- 2、言語力:自分のイメージやアイデアを他者へ伝え切るための演出言語力。
- 3、内省力:自身の感情や思考・行動と真摯に向き合うための自己内省力。

■なぜギリシア喜劇なのか?

いつ終わるとも知れない戦争の中で書かれ上演されたアリストパネス『アカルナイの人々』は、ギリシア喜劇の代表的な戯曲です。二千数百年前に書かれた作品ですが、読み進めて行くと現在の私たちにとても他人事ではない様々な問題を見つけ出すことができます。国中を巻き込むような誰もが当事者として関わらねばならない問題に、私たちはどう向き合えばよいか。ギリシア喜劇が持つ諷刺精神・批判精神の中に息づく力強い言葉と行為の豊かさを探ることは、今を知ることにつながっています。

【海外招聘講師】ヌルカン・エアブラート

1974年アンカラ生まれ。イズミールの大学で演劇学を専攻した後、エルンスト・ブッシュ演劇大学で演劇教育と演出を学ぶ。現在はベルリンを拠点に、ハノーファーやリンツなどのドイツ語圏で活動している。演出作品には、『フェイク』『向こう側 —お前はホモか、トルコ人か?』『影の声』『村に旅行ガイドはいらない』等がある。青少年演劇にも取り組んでおり、ドイツ内外の多くの劇場や演劇フェスティバルに招かれている。ドイツでは、国際青少年演劇プロジェクト『クラッシュ』に引き続き、カフカの『城』を手がけている。『狂った血』にて、テアター・トレフエン2011へ招待。イェンス・ヒリエ氏と共同執筆した本作は、演劇雑誌『テアター・ホイテ』の劇評アンケートにて、ドイツ語演劇部門での年間ベスト作品に選出された。2011/2012年のシーズンからは、デュッセルドルフ劇場で芸術監督を務めている。



【レクチャーゲスト】 鴻英良・大貫隆史・正木喜勝・他

■ブレーストーミングの進め方

全ての参加者が公平に発言し、短時間で活発な意見交換ができるように、主にカフェダイアログ形式を用いながらリラックスした雰囲気です話し合いを進めます。語らいのテーマや深まり方に応じて、2チームに分かれてのディベートやロールプレイなどを行い、新たな発想が生まれやすい環境を創ります。

■ブレーストーミングの大まかな流れ

《1日目・火曜日18:00~21:30》

『ちょっと、広げてみようか。』

参加者自己紹介と上演企画書の情報交換
レクチャー1「ギリシア喜劇って何?」
※知っていること・知らないことを一旦この場で広げてみて、お互いの知識や情報を交換・共有します。

《2日目・水曜日18:00~21:30》

『いろいろ、集めてみようか。』

語らい「この作品を上演する現代的意義について」
語らい「上演をする上で最大のハードルは何か? / 何が追い風となるか?」
※一つの答えを見つけ出すことが目的ではありません。参加者同士が語らう中で、今までは違う観点・考えを広げてみようという試みです。

《3日目・木曜日18:00~21:30》

『やっぱり、散らかしてみようか。』

語らい「報酬と責任の分配について」
語らい「このテキスト、翻案するならどうする?」
※テキストの情報整理(書かれていること/書かれていないこと)いろんなキーワードをひろって、対話をすすめます。

《4日目・金曜日18:00~21:30》

『いつか、手放してみようか。』

レクチャー2「ギリシア演劇の意味」
語らい「どうして演劇なんだろう?」
※少しテキストを離れ、もっと大きなくくりで、パロディと諷刺/民主主義と芸術/演劇とは何か/など、演劇をやる命題のようなことについて語り合います。

《5日目・土曜日18:00~21:30》

『もっかい、組み立ててみようか。』

上演シミュレーション
※様々なケースを想定し、上演という現実と理想の葛藤・妥協点から「そもそも何の為に?」という目的や意義を改めて確認します。他者の意見を聞きながら、自分が本当に大事にしていることやテキストの再理解など、今まで考えが及ばなかったことに気付いてみようという試みです。

《6日目・日曜日14:00~18:00》

『だいた、広がったのかしら?』

第1部 14:00 ~ 16:00
ブレーストーミング参加者による演出プランのプレゼンテーション
第2部 16:15 ~ 17:00
ヌルカン・エアブラート氏によるレクチャー
「移民文化について」彼の創作活動や作品紹介(シラー『群盗』)も交えながら。
第3部 17:15 ~ 18:00
ブレーストーミング参加者とヌルカン・エアブラート氏による座談会。
(終了後、交流会開催予定)

国際演劇交流セミナー2012 ドイツ・トルコ特集
『世界と出会う。日本を発信する。』

全日程
一般公開します!

見どころ満載!